

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-148210

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>

A 61 K 7/06

識別記号

庁内整理番号

6737-4C

③ 公開 平成3年(1991)6月25日

審査請求 有 請求項の数 3 (全3頁)

④ 発明の名称 育毛剤

② 特 願 平1-286348

② 出 願 平1(1989)11月2日

⑦ 発 明 者 渡 辺 高 助 東京都東久留米市小山1丁目7-11

⑧ 出 願 人 渡 辺 高 助 東京都東久留米市小山1丁目7-11

⑨ 代 理 人 弁理士 筒井 大和 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

育毛剤

2. 特許請求の範囲

1. 育毛有効成分と糖類と動物性油脂とを主成分とする育毛剤。

2. 育毛有効成分は、トチュウエキスまたはセンブリエキスの少なくとも一方であることを特徴とする請求項1記載の育毛剤。

3. 動物性油脂は、馬油であることを特徴とする請求項1記載の育毛剤。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、発毛の促進に卓効を有する育毛剤に関するものである。

(従来の技術)

毛髪の発育促進を目的とする育毛剤には、その有効成分の種類に応じて極めて多くのものがある。

毛髪の発育促進に効果のある成分としてよく知られているのは、センブリエキス、MTB(塩化

カルプロニウム)、女性ホルモン、ヒノキチオールなどである。また、ビタミンB複合体やビタミンEなどにも発毛促進効果があると云われている。

センブリエキス系育毛剤は、古来より健胃剤として服用されているセンブリ(千振)エキスに毛細血管拡張作用があることを利用したもので、これを頭皮に塗布することにより頭皮の血行を促進し、以て毛髪の発育を促そうとするものである。

MTB系育毛剤は、毛球部のエネルギー代謝を促進し、これによって毛髪の発育を促そうとするものである。

女性ホルモン系育毛剤は、脱毛の一因が男性ホルモンの過剰にあることに着目し、女性ホルモンの投与によって男性ホルモンの分泌を抑制しようとするものである。

ヒノキチオール系育毛剤は、ヒノキなどの針葉樹に含まれる精油成分であるヒノキチオールに細胞活性作用があることを利用して毛母細胞の活性を促そうとするものである。

(発明が解決しようとする課題)

上述した従来の各種育毛剤は、ある程度の発毛促進効果が認められるものの、いずれもその効果は充分とは云い難く、また効果に個人差が大きいことから、人によっては効果が全く認められないこともしばしばであった。

本発明者は、かかる問題点に鑑みて鋭意研究を重ね、発毛の促進に卓効を有する成分を見出すことによって本発明に到達したものである。

すなわち、本発明の目的は毛髪が発育促進に卓効を有する育毛剤を提供することにある。

〔課題を解決するための手段〕

本発明の育毛剤は、育毛有効成分と糖類と動物性油脂とを主成分とするものである。

本発明において好ましいとされる育毛有効成分は、センブリエキスである。また以外なことに、古来より利尿剤として服用されてきたトチュウ（杜仲）エキスに発毛促進効果のあることが本発明者の研究によって明らかとなった。センブリエキスやトチュウは、単独で使用してもよいが、これらを併用することにより顕著な発毛促進効果が得

ある。

このようにして得られる本発明の育毛剤を使用するに際しては、就寝前にあらかじめ毛髪に付着したよごれや油分を洗髪により除去した後、毛髪の薄くなった箇所に本育毛剤を1～2g程度塗り込み、頭皮を数分間マッサージする。そして、翌朝もう一度洗髪して育毛剤を洗い流す。なお、育毛剤を洗い流した後、整髪料やトニック類を使用することは何ら差支えはない。

以下、本発明の育毛剤の効果について実施例を用いて説明する。

〔実施例〕

#### ①育毛剤の製造

トチュウの乾燥葉2gを100ccの沸騰水に加えて約2分間煎じることにより、トチュウエキスを調製した。また、センブリの乾燥物10gを300ccの沸騰水に加えて約5分間煎じることにより、センブリエキスを調製した。次に、上記トチュウエキス（水溶液）15gと、センブリエキス（水溶液）15gとを合わせた水溶液30g中に、

られる。その他の育毛有効成分として好ましいのは、ビタミンB複合体やビタミンEである。

糖類は、ブドウ糖、果糖などの単糖類や、蔗糖、麦芽糖などの二糖類である。また、これらの糖を多量に含む蜂蜜を使用してもよい。

動物性油脂は、馬、牛、豚、アザラシ、オットセイ、トドなどの哺乳動物から得られる油脂であるが、特に馬油を用いた場合に顕著な発毛促進効果が認められた。

本発明の育毛剤は、例えばセンブリやトチュウの乾燥物を沸騰水で煎じ、得られた抽出液に10重量％程度の糖類を添加した後、40～60℃程度の温度で動物性油脂を加え、十分に攪拌して乳化することにより製造することができる。その際、乳化を促進する目的で界面活性剤を添加してもよい。また、上記育毛有効成分の他、血行促進作用を有するビタミンB複合体や、皮膚刺激作用を有する塩酸フルスルチアミンなどを添加してもよい。さらに化粧品などに添加するパラベンなどの防腐剤や、各種香料、着色剤を添加することも任意で

ブドウ糖3gを添加して攪拌、溶解した。次に、この水溶液を50℃に加温し、馬油70gを加えて攪拌、乳化した後、ビタミンB<sub>1</sub> 20mg、ビタミンB<sub>2</sub> 20mgおよび塩酸フルスルチアミン200mgを添加して攪拌し、乳液状の育毛剤を得た。なお、この育毛剤は、長期間放置すると油脂分と水分とが分離することがあるが、そのときは、使用前に振盪することにより、容易に乳液状となる。

#### ②試験

上記育毛剤の発毛促進効果を調べるため、毛髪の薄くなった30代～50代のバネラー（男性）11名による試験を行った。

##### －試験方法－

毎日就寝前に洗髪を行った後、毛髪の薄くなった箇所に本育毛剤を1～2g程度塗り込み、頭皮を約5分間程度マッサージした。そして翌朝、もう一度洗髪して育毛剤を洗い流した。

##### －試験結果－

上記の方法で本育毛剤を毎日使用したところ、1週間経過後にバネラー11名中8名に産毛状の

毛髪が生えてきた。その後さらに1週間本育毛剤を使用し続けることにより、上記8名の産毛状の毛髪が平均して1cm程度まで成長した。そしてさらに本育毛剤を毎日使用し続けたところ、個人により多少の相違はあるが、平均1~2ヶ月で上記産毛状の毛髪が通常の毛髪と区別が付かない程度にまで成長した。またこの間、発疹やかぶれなどの副作用の発生は皆無であった。

〔発明の効果〕

上述した試験結果から明らかなように、本発明の育毛剤は、発毛の促進に顕著な効果を発揮し、しかも使用方法も簡単であり、かつ副作用も皆無である。

特許出願人	渡辺高助
代理人 弁理士	筒井大和
同 弁理士	中野敏夫